



猛暑のなか始まった2学期が終わり、今日が終業式となりました。

## ○2学期終業式の校長講話

今日で2学期が終わります。85日間の長い2学期でした。

2学期は一人ひとりの花を咲かせる学期、それぞれの目標を実現するために、本気になって一步一步努力を積み重ねて欲しいと話しました。どうでしたか。

学校生活の中では、授業中、精一杯取り組む姿がたくさん見られました。先生や友達の意見を真剣に聞く姿。授業がわかるようになるには人の話を聞くことが大切です。そして、わからないところを友達に聞き、教え合ったり、お互いの意見を聞き検討しあう姿が見られました。部活動等でも、暑い日も、寒い日も、友達と練習に励み、技術を高めていました。校友会ではいろいろな活動が制約なく実施することができました。インフルエンザが流行し、絆コンサートが中止になってしまったり、総会も延期になったりしましたが、臨機応変に対応してくれました。



一方で、自分の取った行動や友達に言った言葉で、相手やそれを見ていた周りの人に迷惑をかけた、不快な思いにさせたりしてしまった人たちもいました。一人ひとり自分の行動を振り返り、自分勝手ではなく、みんなが笑顔で安心して学校生活が送れるように真剣に考えることができました。一つひとつ解決して、自分の行動を見直し、成長して欲しいです。

さて、皆さんは、アメリカのメジャーリーグで、今年ホームラン王になった大谷翔平選手を知っていますね。私の夫が野球好きなこともあり、日本で入団し活躍していた時からニュースや本でよく見ていました。本当に、彼の考え、生き方は、とてもポジティブ（前向き・積極的）です。

高校1年生のときの球速は147km/h。その時の彼の中では150km/hを投げたいという願がありました。けれど監督から160km/hを目標にしようと言われた。あと13km/hも球速をアップするのは至難の業です。「最初は無理なんじゃないかと思いました。でも、やっていくうちに手ごたえを感じるようになってきて、そのうちできるんじゃないかなと思うようになりました。自分で無理だと思ったら、できなかった。最初からできないと決めつけるのはやめようと思いました」。監督に言われて、「無理だ」とあきらめずに練習し続け大谷選手は、2年の春に151km/h、そして3年生のとき、高校生で初めて160km/hを達成しました。

「無理だと思わないことが一番大事だと思います。無理だと思ったら終わりです」大谷選手が言っている言葉です。

「できなかったことができるようになるのが楽しいんです。」

「僕の才能が何かと考えた時、それは伸び幅なのかと思いました。」

「負けたからこそ、何でだろう、と考えます。次につながる成長という点では、負けた試合の方が有意義なのかもしれません」

「今日はここがよかったな、ここが悪かったなっていうのが、出てくることっていうのは、すごい幸せなことじゃないかと思っている。」

大谷選手だってはじめから全部できたわけではありません。うまくいかなかったことも負けてしまったこともたくさんあります。しかし彼はそこで投げ出さない。ネガティブ（否定的・消極的）にならない。やってみて、できなかったとき、そこで終わらない。ポジティブ（前向き・積極的）にできなかったところに挑戦し続けていく姿勢が今の彼を作っています。自分の能力はここで終わらない。まだまだ伸び続ける、できるようになると信じている。周りの評価に流されず、自分自身を信じて進んでいく強さです。

もう一つ、大切なことを言っています。この言葉はすごいなと思います。

「イラっときたら、負けだと思っています」

試合で負ける時もある、敬遠されてバットさえ振らせてもらえないときもある、怪我をして手術をしなければならぬこともある、マスコミや相手チーム、時には自分のチームのファンからも非難されることもある。しかし、その一つひとつにイラっとしても何も変わらない。どんなときにも冷静に、自分のやるべきことをやり通す。周りからのネガティブな評価に耳を貸さず、自分自身を信じる強さです。

でも、実際は、大谷選手だってイラっとしているんです。でもそれを、自分でコントロールして押さえているのです。その強さです。

また、大谷選手は自分で目標を決めて、その目標を達成するために具体的に何をすればいいのかを考え、日々取り組むと言うことを高校時代からやっていました。マンガラートイというものを書いています。その中には、

○スピード160km/h→体重増加 体感強化 ライナーキャッチボール

○変化球→ ストレートと同じフォームで投げる ストライクからボールになるコントロール

と言った、野球の技術的なことのほかに

○メンタル→一喜一憂しない 雰囲気になれない 仲間を思いやる心

○運→ あいさつ ゴミ拾い 本を読む 道具を大切に使う 審判さんへの態度

と言った心の安定や礼儀、人として大切なことが含まれています。そしてそのことをメジャーリーガーになった今でも



当たり前のように続けていることが本当に素晴らしいと思います。「ごみは人が落とした運。ゴミを拾うことで運を拾う。そして自分自身にツキを呼ぶ」、という教えだそうです。試合中にも、グラウンドのごみを拾ったりしています。このメンタルと運は、私達でも大切にしたいこと、まねできそうです。

皆さんも、新年を迎えるにあたって、「自分はこうなりたい」という願いを大事にしてください。そして、そのために何を頑張るのかを具体的に考えてみてください。そして、3学期行動に移しましょう。

大谷選手は、子どもの頃にはゲーム機を持っていなかったそうです。ゲーム機と野球の道具のどちらが欲しいか聞かれたとき、迷わずに野球の道具を選んだそうです。自分の願い・目標のために、何を具体的に行動して、今は何を我慢しておきますか？新しい年、あなたは、どんな自分になりたいですか？どんな自分を作りますか？

明日から1月8日までの14日間は、冬休みになります。この冬休み、家族で過ごす時間を大切に、日頃できない話をたくさんしてください。大掃除をしたり、お年取りの準備をしたり、初詣に出かけたりと、いろんな年末年始の生活があります。ひとつひとつの当たり前の出来事が当たり前にできることに感謝して、大切に過ごしてください。

それでは、健康と交通安全には十分注意して充実した休みを過ごし、3学期の始業式には皆さんと新しい希望と夢を胸に出発できることを願っています。よい年をお迎えください。

## ○2学期を振り返って

### 第54回常盤祭 Sparkle～煌めく個性～

9月29日(金)・30日(土)、第54回常盤祭が開催されました。「Sparkle～煌めく個性～」このテーマのもと、校友会役員を中心に全校生徒が一丸となって、1学期から準備を進めてきました。当日までの過程を含め、全校生徒が多く活動を自ら創り上げ、煌めく時間をたくさん過ごすことができました。本年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことを受け、制限をさせていただきましたが来賓の方も呼びし、生徒の学びの姿を見ていただくこともできました。

1日目は、開祭式・学習発表会・技術部発表・校友会企画・展示見学・体育祭を行いました。友の発表から様々なことを学ぶことができました。2日目は、合唱部発表・音楽会・吹奏楽部発表・閉祭式を行いました。体育館に音楽があふれ、ホッとするような一日となりました。また、2日目の音楽会では、多数の保護者の皆様のご協力により、数年ぶりにPTAコーラスによる歌の発表も行うことができました。

大きな行事を成功させたことで、1人1人が自分の成長を実感できた2日間となりました。



### 校友会引き継ぎ会・校友総会

12月14日(木)に校友会引き継ぎ会、21日(木)校友総会が行われました。今年度はコロナによる制限が徐々に緩和される中、前年度踏襲ではなく、新たな常盤中学校校友会をつくりだすために、校友会役員を中心に3年生の皆さんが校友会活動をリードしてくれました。生徒全員にとってよりよい学校生活となるために、日常活動を大切にしながら、着実に実践を重ねてくれました。校友会総会は今年度の校友会活動のまとめとして、また引き継ぎ会は来年度の校友会役員との引き継ぎのために実施されました。

1年間の大役を終えた3年生は、自信にあふれた表情をしていました。バトンを引き継いだ2年生は、やや緊張した様子はあるものの新たな決意に満ちた表情をしていました。いよいよ校友会のバトンが2年生に受け渡されました。



## ○年末年始休業中における学校閉庁日について

今年度も須坂市内の小中学校は、令和5年12月29日(金)～令和6年1月3日(水)を学校閉庁日として設定させていただきました。この期間は終日、留守番電話対応となりますので、ご承知おきください。なお、緊急事態の場合は、須坂市役所の代表電話番号(245-1400)まで、ご連絡をお願いいたします。

須坂市立常盤中学校  
担当： (教頭)  
電話：245-0326